

フープ

女性建築士の輪

NO. 101

2020年 秋号



奈良県コンベンションセンター
『天平広場』

目次

- コロナ禍アンケート
- 私の好きな場所 『神 勝 寺』
- 編集者が選ぶ！フォトジェニックスポット
- 今後の事業予定

奈良県建築士会女性委員会

コロナ禍アンケート

最初に『新型コロナウイルス感染症』というニュースを見た時には、ここまで影響があるとは想像もしませんでした。私たちの生活は『新型コロナ』によって一変しました。仕事・家庭・プライベートにどんな影響があったのか、皆さんにお答え頂きました。

■コロナ禍の自粛生活をどのように過ごされましたか？

体験談をお聞かせください。(ストレスに感じた事、困った事、発見した事など、、、)

《 家庭・私生活編 》

旅行に行くことがなくなり、休日でも家で過ごす時間が増えた。日頃より食料品の買い物は宅配（生協）を利用しているので店舗で買い物をすることは少ないが、お店に行くときはマスク着用、アルコール消毒など気をつけている。(50 歳代)

3 月、4 月は休みが多くて、倉庫の中の断捨離をやりました。スッキリして良い気持ちです。もちろん家の中にある物、服(細くて着られない)、靴、本等処理。家も軽くなって来たのですが、出した物を振るい分けする労力は相当なことでした。(60 歳代)

買い物の回数を減らすために週 1 回のまとめ買いが大変だった。非常食などをほとんど家に置いていなかったのもう少しストックを置いておく場所を考えないとならないと思った。家族全員が個々に P C を使う環境になり Web での授業で、Wi-Fi の容量が足りなくなったり人数分の作業スペースが必要となった。(40 歳代)

不要の外出を控え、食材の買い出しも週 2.3 回のまとめ買いをしています。少しでも気分転換をと、ぬか漬けに挑戦しています。(40 歳代)

4 月には昨年ブリッカー賞受賞の磯崎新出身地、大分にでかける計画をしておりましたが、飛行機・ホテル共全てキャンセルとなりました。11 月には高知でクラス会のはずが、これまたすでに中止となりました。ともかく、旅行に行けないことが一番の困ったことです。(70 歳代)

家で家族が過ごす時間が増え、ケンカもありますが、これまでゆっくり話す機会が無かったのか？子どもとは、いろいろと話すことが出来たように思います。一人っ子の娘は、姪と毎朝、LINE でリモート自習時間を設け、お互い勉強状況を確認し合ったり、YouTube 見ながらダイエット体操したり、これまでなかった形でのコミュニケーションを取ってました。私がバタバタしていると晩御飯を数回作ってくれたり、娘のレパートリーも増え、この期間は、これまでにない、そしてこれからも多分もうない？かな？そんな期間だったように思います。(50 歳代)

買い物で欲しい物が入手しにくい (60 歳代)

Web 授業とリモートワークで私以外の家族全員が 3 ケ月以上の間、平日休日も関係ない自粛在宅で曜日感覚がなくなった頃、いつの間にか海軍のように金曜日の夕食は「カレー」というルールができ、長男がカレーを作ってくれていました。またペットボトルのラベル剥がしや雑草取りなど今、世間で言われる「名もなき家事」の多さに家族が気づいたことは、不謹慎ですが私にとって良かった事です。(50 歳代)

zoom による会議で仙台～東京～埼玉～横浜～名古屋～奈良～長崎と結んで毎回距離的に会うことが難しい人たちとも画面であえて、会議もスムーズに進み懐かしい出会いが持てました。(UIFA JAPON という女性建築家たちの集まりです) 今も行われています。また zoom 飲み会も行われ各地の建築の状況もよくわかりました。

食事も外でできず家にこもった時期でした。でも県外移動ができるようになって友人と静岡富士山世界遺産センターまで走ってきました。(坂茂さんの設計) それが息抜きかな…。田貫湖西のホテルから夜に富士山が見えるという新しい驚きがありました。久しぶりに目にお金をかけることができました。

それと毎朝佐保川沿いを歩いて (30 分だけ) 花の様子、稲が育っていく様子、最近の建売住宅の売れない様子を目の当たりにしました。(70 歳代)

私は事情があって昼は家に居られないので本当に困りました。お寺 (無住寺) に行ったり吉ノ川畔に行ったりと、、、。公民館、図書館、老人憩の家、みんなシャットアウト、悲しかった。行けるようになってからも一つ椅子を空けるので、耳の遠い方がおられて話が出来ないので補聴器を買われましたが、慣れないのと雑音を拾うので困っておられます。(70 歳代)

今までは生活も仕事もこなすのが精いっぱいの日々だったので、まとまった時間にいろいろ整理できました。自分自身と暮らしをリセットしリスタートする貴重な時間でした。いらないものを沢山収納していることにも驚きました。住宅に大切なのは収納よりも掃除しやすさだと確信しました。(50 歳代)

ストレス→人は食事しないと生きていけません。家族の食事のために、スーパーへ行くのですが、回数を減らし、必要なものをメモして、できるだけ人の少ないであろう時間帯に行きました。店員とも必要最小限の会話で済みます。歯医者に通院中だったのですが、できれば行きたくない。(感染の可能性があるので) 何がストレスって、人と会話し繋がる事 (リアルで) を避けなければならなかったこと。

良かったこと→自宅での時間の流れ方が変化し、庭に季節の花が咲いたら気づき、愛犬の最期の時間に寄り添い共に生きてあげられたこと。(6/2 旅立つ) (50 歳代)

イベントの企画や会議などが中止となり、自分の時間を持つことができた。
家族に外出することを心配されるのが心苦しかった。(40 歳代)

平日は家、電車、会社、仕事を終えると買物のみしてすぐ帰宅、毎日全くこの繰り返しである。休日の世間は真夏の昼寝時間か？の様に静かであった。個人的にはコロナは×だけど制限の中で何ができるのか、家にいない事が前提の様な人々の生活が「家族」に戻ったり、考えたり気づきの時間が持てたのは良いと思う。(60 歳代)

緊急事態宣言発動中も仕事を主体とした生活リズムは変わりませんでした。常々の生活用品についてストック主義ではなかったので、欲しいものが欲しい時に手に入らない事にストレスを感じました。無い！となるとかなり焦りました。(40 歳代)

子供の保育園が登園自粛になり、週 2～3 日は休むことになりました。同時期に夫も在宅勤務になり食事の準備や仕事時間の確保など生活が一変して毎日必死でした。運動不足になりコロナ太りも。。。未だ戻らず。(40 歳代)

4 月から大学進学のために一人暮らしをする予定だった娘の入学式は中止になり、授業開始の目処も立たず、引越しの計画が狂ってしまいました。入居するマンションは既に契約を済ませていたので、大きな家具・家電類を運び入ただけで未入居のまま家賃を支払っている状態でした。(7 月半ばにようやく引越ししましたが。) 一方で、大学の授業は完全オンラインで開始され、学生同士の交流もオンライン上で頻繁に行われるようになりました。娘はすっかり順応し、自宅にいながらもそれなりに充実した学生生活を送っている様子でした。私にとっては、本来なら知りえなかった娘の大学生活の一端を垣間見ることができ、ある意味貴重な経験になりました。(40 歳代)

■コロナ禍の自粛生活をどのように過ごされましたか？

体験談をお聞かせください。(ストレスに感じた事、困った事、発見した事など、、、)

《 仕事編 》

個人事務所をしており、事務所や現場への移動も車なので大きな変化は無い。仕事量は今のところ変わらないが、今後はどうなるか分からない。施主との打合わせは面談の回数を今までより少し減らし、打合わせ(対面)+メールでのやり取りで進めている。メリットとして、Zoom での会議や授業(講師)、web セミナーなど、ネットの活用方法に慣れることが出来た。web セミナーは、出かけずにいろいろなセミナーを受けることができてとても良い。(50 歳代)

仕事先は大阪です。往復 電車ですので、周りを気にしながらの出勤でした。学校が休みになりだんだんと人が少なくなり、座って通勤出来ました。4 月になると緊急事態で、週二日、5 時間/日となり、この 2 日で 1 週間分を処理することになり、これも大変でした。(60 歳代)

業務はほぼ通常通りだったが、感染拡大の観点から集金・支払いなどをすべて郵送にしたり、会議が慣れないオンラインとなったりした。(40 歳代)

緊急事態宣言解除後も引き続き在宅勤務を実施しています。
仕事のオン・オフの切り替えが難しい……。 (40 歳代)

仕事は幸い 5 月始めに奈良市の入札で仕事をいただき、日夜事務所に籠って仕事をしています。とはいえ、1 月に始めたスポーツジムには行けず、パソコンの前ばかりでは足が萎えてしまいます。テレワークは一向に差支えありません。もともとメールで図面のやり取りをしており、今後はもっと多くの職種がこうした仕事のやり方になる方がよいと考えます。しかし、人とのコミュニケーションはお互い顔を見てが肝要、早くコロナから開放されたいですね。(70 歳代)

幸いにも忙しくしておりましたが、この期間、役所や審査機関とのやり取りが必要な仕事があり、とにかく、コロナシフトに悩まされました。思うように進めることが出来ない仕事は、ホントにストレスでした。(50 歳代)

通常と変わらず実家の小事務所へマイカー通勤をしていました。ただ仕事の進捗はメーカーや行政の自粛でいつもより時間を要しました。また、打合せや会議がなくなった分デスクワークに集中出来ました。(50 歳代)

ずっとず〜っとパソコンの前。改修工事というのは新築工事と違って既存の状況図と改修後の図面が必要で、書いても書いても終わらない日々が続いています。(中学校のトイレの改修工事) (70 歳代)

飛び込み営業が多いので後 1 年は今までのようにはいかないと思います (60 歳代)

急がなくてもいい。時間がかかるのも仕方ない。また、それでも仕事はできる。今まで皆がサービス精神多すぎたのだと気づきました。(50 歳代)

仕事内容の一つがお客様から電話が入る箇所なので、閉鎖はできず通常 3 人の内勤スタッフは 3 交代制とし通常勤務をしていた。時間的に余裕があったので、私は来るべき退職時に「自分の仕事まとめ」マニュアルを作成し普段できない事に取り組んだ。(60 歳代)

困った事：私生活同様人と対面してお話しできなくなったこと。
良かった事：web セミナーで気になっていたスキルの向上ができたこと。(50 歳代)

ショールームなどが閉館し、打合せが進まずに困りました。(40 歳代)

お客様との打ち合わせがメールや電話でのやり取りが多くなり、スムーズに進まなくなりました。
現場では、海外の部品を使った設備器具が届かず、3月の入居が遅れてしまいました。(40 歳代)

お客様と緊急事態宣言が解除されるまでお会いできず計画を進められませんでした。(40 歳代)

小さな事務所で働いていますが、4月頃から自宅で仕事ができるよう配慮していただき、必要に応じて出勤するような形でした。そもそも現場に出ることが多く留守がちな事務所なのですが、私が出勤しないことで昼間にシャッターが開かない(=光が入らない)が増え、観葉植物を枯らしてしまったことは非常にショックでした。そして、あろうことか、黒い害虫Gが初お目見えしたらしく……。事務所を留守にした代償もそれなりに大きかったようです。(40 歳代)

■コロナ禍で私たち建築士にできることは何か、またどのような視点での設計が必要だと思われますか？

店舗、飲食店、集会所、学校、保育園等々の設計で今後も新型コロナの発生も頭にいれた計画が必要になってくるかと思います。密にならない工夫、換気設備の充実、出入り時のウイルス持ち込みの回避をしっかり考える。(70 歳代)

家の中に風の通り抜けができる様にする。エアコン、換気扇だけでは無理があると思うのです。
日本家屋の良いところを認識して行きたいですね。(60 歳代)

一般の社会において在宅ワークをされる方が増えている。住宅建築にも、リモートワークやリモート会議にも対応できる仕事室のようなスペースのニーズが増えるように思う。また、在宅時間が増えることにより“居心地の良い家”を求める傾向にある。リノベーションを専門でしている設計者が、コロナになってから問い合わせが増えたと話をしていた。在宅ワーカーが増えると、家族が家で共に過ごす時間が増える。それぞれが距離をとったり縮めたりしながらストレスなく過ごせる住まいが求められると思う。早朝に家を出て通勤電車に乗り夜遅くに帰宅するようなお父さんの居るサラリーマン家庭像（そのための家）は一般的ではなくなる可能性もある。在宅ワークの一般化は、働く親が家庭や地域コミュニティとつながる機会が増える可能性もあり、望ましいことと思う。(50 歳代)

このような時に限っての私たちができることというのは、とても難しいように思います。
それよりも、このような時が特に特別でなく、常日頃、家族で過ごすお家、空間というものをどの様に提案できるか？それは、PLANでも、素材選びでも心地よく居られるものを作っていけることは大切になって思いました。(50 歳代)

部品がそろわない〇〇メーカーのキッチンが入らない…というような話ばかり そのようなときに
それならばこれがある、という自分の中にストックを（情報など）しておくことが必要な と改めて思いました。(70 歳代)

コロナ禍において、専門家が言うフィジカルなディスタンスは大きく、逆に密なコミュニケーションがとれるようなメンタルディスタンスは近くという相反する事柄を空間デザインで解決することが建築士に与えられた課題であると考えます。例えばお互いのスペースを隔離しつつも、視線は繋がり雰囲気を感じられるといった吹抜空間やお互いのスペースは、個々に隔離しつつも、全体の中心に共通のシンボルとなるものを配置し、意識としては繋がっているといった空間など、建築士として社会に対して既存の用途や機能にとらわれない提案を発信していくことが重要であると考えます。(50 歳代)

換気、シックハウスの時も空気の流れ難しい、我が家もですが、寒いけど昔の様に隙間風のある家がよいと思います。(60 歳代)

建築基準法以外にコロナ対策を考えなければならず難しくなりますね。椅子の配置どうすれば？介護の方法は？ベッドの配置は？ 必要面積が広くなり建物が大きくなるので建築費用が増える。(70 歳代)

進化した設備機器やイメージに惑わされて自由すぎる住宅を作ってきたのではないのでしょうか。地震で耐震の大切さに気付き、今回のコロナで昔の建物の合理的な間取りについて考えさせられました。医学も科学も発達していない時代に感染症や食中毒を防ぐ知恵が昔の建物にはあったのだと再認識しました。(50 歳代)

人々の生活に密着した本当に必要とされるものをつくること。
コロナですぐ困ったのは、子供や生活困窮者の居場所、食べる事（収入がなく食べれない）だったと思います。空家を利用しまず安全を守る為の最低限必要な耐震工事をし居場所を増やしたりフードバンクの拠点にしたりと、現在の日本が困っている事象に空家も利用できたらと考えています（個人的に他県実家が空家になりその方向でゆっくり計画を進めている所です）。(60 歳代)

with コロナをできるだけストレスなく安心して過ごせる空間づくりの提案。
新しい暮らし方（施主それぞれの新しい暮らし）を聞き出し、整理し、時代を読み、想像する。
それぞれの暮らしに寄り添いながら、今できる最善を尽くすこと。
社会構造変化の真っ只中、これまでの常識にとらわれず、アンテナをはり、様々な動きを敏感に感じ取る事が必要かと。(50 歳代)

リモートワーク・学校のオンライン授業に備えて、個室でなくても夫婦や子供たちがそれぞれに作業できるスペースの確保。
もし家族が感染症にかかった場合、残りの家族と動線を隔離できるような間取り、換気設備。(40 歳代)

わかりません。(40 歳代)

今回のコロナ禍で「三密を回避する」という事が大前提となりました。私は住宅の仕事を主としているので、できるだけ自然にコミュニケーションを取れるような提案を心掛けてきたつもりでしたが、このような事態になった時の対応として空気の流れや間取りの工夫が更に必要だと感じました。(40 歳代)

住宅では玄関の把手に触れる前に、手洗いや消毒が出来ると良いと思いました。(40 歳代)

住宅設計に関して言えば、今回、自宅で過ごす時間が増えたことは良い機会だったと思います。私自身、住まい手として、今まで見て見ぬふりをしていた問題に向き合わなければなりませんでしたし、「家」に対して求めることの多さを自覚しました。住宅設計をする側として自ら「家」に関わることは大切だと感じました。

このコロナ禍において、「家」はまさにシェルターのような役割を担っています。家族全員が安心できる居心地の良い場所であることが重要だとあらためて思いました。設計する上で、家族が自然にコミュニケーションがとれるような工夫が必要ですが、同時に、程よい距離感を保てるような工夫も必要だと感じました。(40 歳代)

■今後建築士としてどのような仕事の進め方が必要だと思われますか？

地震・台風・暴風雨のような災害に対しては、具体的に仕事の中でどう対応するかははっきりしています。しかし、コロナのような見えない敵、しかもとても狡猾なウイルスにはいまのところ、建築士の出る幕はないような気がします。(70 歳代)

施主様に自然換気の提案も進めても良いのでは(60 歳代)

打ち合わせや会議はリモート（zoom 等）で行う。
確認申請業務は web 申請利用。とても便利です。(50 歳代)

思案中です。(50 歳代)

建築の仕事は、モノづくりである以上、設計から現場まで対面のコミュニケーションがどうしても必要ですが、その上で、対面の会議の回数は減らす代わりにリモートの会議は増やす、リモートで移動が減る分、会議の時間は増やすなど仕事の進め方そのものを変え「コロナ禍」を「働き方改革」のきっかけと捉え「禍転じて福をなす」視点を持つことが重要だと考えます。(50 歳代)

建築主ともリモートで打合せができたらいいな…と思います。（もっともこれは施主のお人柄にもよりますが。）(70 歳)

申し訳ありません。想定外が多すぎてわかりません (60 歳代)

建築は総合なのでいろんな分野を勉強しないと出来ないのが大変だと思うが、それだけやりがいのある仕事。（福祉、高齢者の問題、保険）(70 歳代)

わかりません・・・(50 歳代)

建築だけにとらわれずアンテナを張っておくこと。ふとした関りで建築士としての知識が役立つ。（60 歳代）

施主との打合せがいつでもできるようオンライン打合せも準備。

時代の動きや先を読みながら、柔軟に対応できるようにする。（50 歳代）

お施主様や各業者さんとの可能な限りのリモートでの打ち合わせなど（40 歳代）

これからも今まで同様に、住む人、使う人の立場に立った建築づくりを続けたいです。（40 歳代）

リモートを取り入れていく事が必要だと思いますが、どんな方法でもコミュニケーションを欠かしてはいけないと思います。（40 歳代）

リモートでの打ち合わせも必要になっていくのかな、と感じています。

ですが図面を見ながらのああでもない、こうでも・・・を画面上で出来るものか？とも思っています。しばらくは試行錯誤が続くと思います。（40 歳代）

（建築士個人としてよりは、業界全体の話になるので、少し論点がズレているかもしれませんが・・・）

今回のコロナ禍において、在宅勤務の有用性が見直されているように思います。私は妊娠中や子どもが小さい頃、「家でできる仕事をしたい」と思ったことがありますが、それなら自分で事業を立ち上げるしかない、というイメージでした。それは実績がないと成り立たないと思っていましたので、私にとってはハードルの高いものでした。今回のことをきっかけに会社や団体に所属しながら在宅勤務ができる仕組みが広がれば、外で働くのが困難な方の選択肢が広がるのではないのでしょうか。特に建築士という仕事は在宅でできる部分も多い仕事です。働きたい方の希望に応えられるような、埋もれてしまっている能力を引き出せるようなシステムやネットワークを構築することができれば良いと思います。（40 歳代）

この度は、お忙しい中「コロナ禍」のアンケートにご協力くださりありがとうございました。

こうして皆様の声を聞かせていただくと、新型コロナがプライベートや仕事に及ぼしている影響の大きさを実感致します。ただその中でも、コロナ禍を乗り越える工夫や、発見があった事、今後私たちが考えていかなければならない事等、皆で共有できたことで前向きな気持ちになれたのではないのでしょうか？

コロナ禍の終息にはまだ時間がかかるかもしれませんが、個々ができる感染予防と前向きな気持ちを忘れずに乗り越えていきたいですね。

私の好きな場所「神 勝 寺」

篠田 三起子



2016年にリニューアルオープンした「禅と庭のミュージアム」臨済宗建仁寺派、天心山神勝寺に昨年の秋に足を運んでみました。ミーハーなもので、新設されたアートパヴィリオン「洗庭」の見学が目的でした。



名和昌平
+sandwich 設計
外観の素材は1つ、サワラの柿葺で包まれた舟形で曲線が美しい。



内部は小さな扉から吸い込まれるように入ると暗闇の世界。禅の無の世界が心を落ち着かせてくれます。暗さに慣れた頃、か

すかにキラキラと水面を感じました。

敷地に浮遊？海原を浮遊？する建物の下にひかれたゴツゴツした大量の石や「ソテツワラビ」は(そら植物園)プラントハンターの西畠清順氏の作品です。何か不思議な生物に見えてきました。



神勝寺は造船ゆかりの寺だと後で知りました。行ってみると見所はそれだけではありませんでした。山の上の広大な敷地には滋賀県の永源寺から移築された「含空院」。

中村昌生氏により復元された利休の茶室「秀路軒」「一来亭」。露地の作庭は中根金作氏により再現。又、白隠禅師のかわいい禅画などの禅宗美術も常設。

そして建物と建物をつなぐ日本庭園一帯は、中根庭園研究所の中根史郎氏の作庭と、とても贅沢な場所。

1日では時間が足りなかったです。車で4時間かけてでもまた行きたいと思う、アート、建築、庭園、食など、禅の世界を通じて五感が喜ぶ場所になりました。



総門を入つてすぐの建物の寺務所は藤森昭信氏の松堂。



含空院での昼食。●□▲の湯豆腐の意味は忘れました！



池泉回遊式
庭園





空飛ぶ泥船&高過庵

藤森照信氏が地元で手掛けた茶室です。川向うに八ヶ岳を望む山裾にあり、素晴らしい展望の中にこの不思議な建物を見た時はおとぎ話の世界に迷い込んだような気持ちになりました。現在は『低過庵』も仲間入り、中には入れませんが一見の価値あります。

■撮影場所 案内図



住所：長野県茅野市宮川高部 神長官守矢史料館敷地内

今後の事業予定

2020 年

9 月

13 日 (日) 二級建築士試験 (設計製図)

17 日 (木) 監理技術者講習

23 日 (水) 第二期建築士定期講習
(奈良県産業会館)

10 月

11 日 (日) 一級・木造建築士試験
(設計製図)

21 日 (水) 監理技術者講習

22 日 (木) 第三期建築士定期講習
(奈良商工会議所)

11 月

10 日 (火) 既存住宅状況調査技術者講習
(更新講習)

18 日 (水) 監理技術者講習

12 月

2 日 (水) 第三期建築士定期講習
(奈良県産業会館)

8 日 (火) 既存住宅状況調査技術者講習
(更新講習)

16 日 (水) 監理技術者講習

2021 年

1 月

21 日 (木) 監理技術者講習

※新型コロナウイルスの状況により、スケジュールが変更になる場合がございます

編集後記

今号より編集を担当することになりました、福永香奈です。どうぞよろしくお願い致します。

今年は春からコロナに翻弄されて、モヤモヤとした気持ちで過ごしていましたが、アンケートを拝見して皆さん同じように感じておられるのだな、と少しホッとしました。

一時期はこのまま終息してくれるのかと期待しましたが、with コロナは続いていきそうです。『フープ』が少しでも暗くなりがちな気分を和らげられたら嬉しいです。

私は登山が趣味で、今回フォトジェニックスポットで紹介した茅野市も山の帰りに立ち寄りました。近くには諏訪大社本宮・前宮があり、少し足を延ばした諏訪湖畔には映画『テルマエ・ロマエ』の撮影にも使われたレトロな公衆浴場『片倉館』があり、山も建築も堪能できる大好きな場所です。

しばらく再訪は難しそうですが、次に行ける機会を楽しみにしたいと思います。

福永 香奈